

ART SCENE

国東半島芸術祭 2014.10/4 - 11/30 国東市と豊後高田市を舞台に開催されました

▼岐部プロジェクト



参加アーティスト 川俣 正

▼千燈プロジェクト



参加アーティスト アントニー・ゴームリー

▼成仏プロジェクト



参加アーティスト 宮島 達男

Check!

国見町のアーティストに出会える『国見町 工房ギャラリーめぐり』

毎年、春と秋に開催。国見町に点在するギャラリーや工房を開放し、作品だけでなく地元作家との交流やワークショップを楽しめるイベントです。

お問い合わせ先：国見アートの会事務局（涛音寮）Tel. 0978-82-1328



開催日時等くわしくはFacebook ページ『国見町工房ギャラリーめぐり』、涛音寮ホームページ (<http://www.touinryou.com/>) または国東市ホームページ (<http://www.city.kunisaki.oita.jp/>) をご覧ください。

発行



NPO 法人 国東半島くにみ粋群

大分県国東市国見町伊美 3884 番地
(国見 B&G 海洋センター内)

Tel & Fax.0978-82-0770

ホームページは「国東半島くにみ粋群」で検索!

表紙・中面 風景写真/谷 知英 (国見町)
デザイン/廣岡 衣奈 (国見町)

大分県
国東市
国見町

くにみで
つくる



ART &
CRAFT

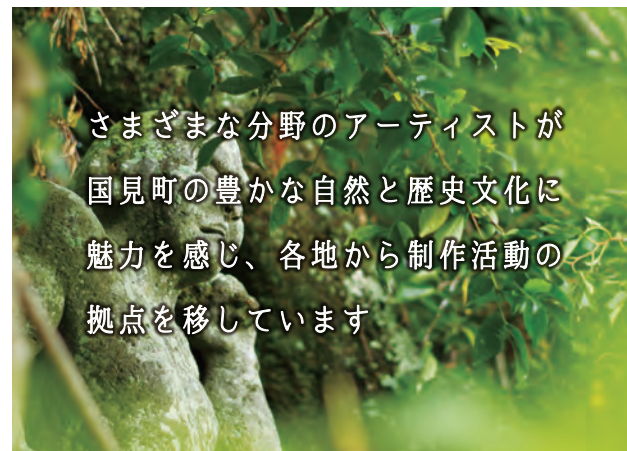
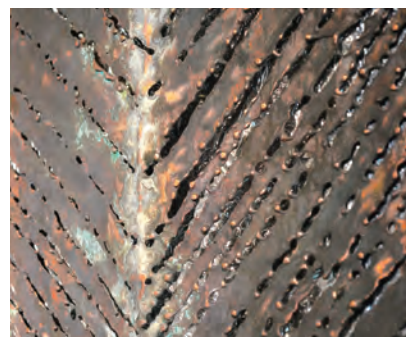
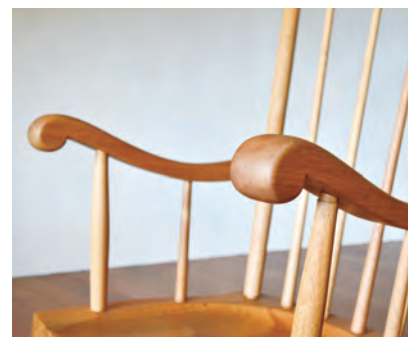
大分県 国東市 国見町

六郷満山文化が栄えた「仏の里」国東市。
神仏習合の歴史遺産が数多く残されている国見町は
「アート」の町とも呼ばれています。



五辻不動尊からの眺め

【車で】 大分空港 ↔ 国見町…約 40 分 JR 宇佐駅 ↔ 国見町…約 40 分 大分市中心部 ↔ 国見町…約 1 時間 40 分
【フェリーで】 山口県周南市 ↔ 国見町…2 時間



さまざまな分野のアーティストが
国見町の豊かな自然と歴史文化に
魅力を感じ、各地から制作活動の
拠点を移しています



家具職人



地元の作家達とコラボして
木工作品に新たな魅力を加え
他では真似できない物を
世に出していきたいです。

恒成 哲三郎さん

『くにさき六郷舎』主宰。
世界約60カ国を自転車と
ヒッチハイクで巡り移住先を
探す。1987年国見町へ移住。

国見町で工房を開いて27年になります。主に食器棚や椅子等の注文家具、まな板等のキッチン用品まで幅広く作っています。国見でしか実現できない商品づくりにも力を入れたいと考えようになり、「Kunisaki craft」という新しいブランドを発表しました。将来的には地元の作家達と連携して、商品を作っていきたいですね。若い作家達の仕事につながっていけばいいなと考えています。



『Kunisaki craft』ブランドのパターケース。
イギリス、シンガポールの展覧会にも出品した。

メタルアーティスト

海や山のそばで暮らすと
モチーフとの出会いが
身近にあるのが嬉しいですね。
贅沢な環境だと思います。



秋本 順子さん

2004年に福岡県から移住。
約2年かけて山を開墾し住居と工房を作った。
金属の作品制作に取組む。『アトリエ・ジュン』主宰

こちらの良さは、暮らし始めてしばらくたってから分かるようになりました。私は元々ジュエリーデザインが中心でしたが、国東の自然に触れて作品の方向性が変わりました。移住後は、金属を使って海や山などをモチーフに、オブジェを創作しています。国見町には多彩な作家達がいて、良い刺激をもらっています。お互いの仕事を尊重しながら付き合えるって幸せなことですね。



朝、愛犬のシェパード3頭と森を散歩するのが日課。季節の移ろいを感じながら制作している。

イラストレーター



農家さんや企業のプロデュース、
ブランディングの仕事もしています。
田舎だからこそできる働き方だと
感じています。

中野 伸哉さん

NYやシドニー暮らしを経験後
1999年に国見町へ。妻と息子は
造形作家。『ラバロマ』主宰

東京にいた頃はデザイン事務所との取引が中心だったけれど、ここでは直接クライアントと繋がっているのが大きな違いですね。様々な相談を受けPR等も含めて全体を考える仕事に発展しています。プロデュース業の第一号は地元産のみかん。「温故蜜柑」と名付けてブランド化しました。全国で着々とファンが増えていきます。家族で陶器・ガラス工房をしながら東京と地元の仕事を両立しています。



その昔スーパーだった空き店舗を改装し、妻と息子と共に陶器やガラス作品も制作・販売している。

陶芸家



薪窯で焼くのが可能な所でも
なおかつ子育てするにも
良い環境へ移住すると
決めていました。

福永 泰信さん

『陶房ふくなが』主宰。
2007年に北九州市から移住。
焼く・粉引・灰釉を中心に
器を制作している。

大分や福岡市内のデパートやギャラリーで個展を開いて展示販売しています。工房で教室も開いています。器は自作の薪窯で2日ほどかけて焼きますが、火を完璧にコントロールすることはできません。だからこそ生まれる自然な風合いに魅力を感じています。愛用して下さるお客様や妻の意見を取り入れて、日々の暮らしを豊かにする器を丁寧に作り続けていきたいと思っています。



火のまわり方等を観察し改良を重ねた薪窯。展覧会が重なる時にはガス窯も並行して使用。

画家

この土地ならではの
暮らし方に合わせて
絵の制作環境を自分で
調えるのも大切な仕事。

廣岡 茂樹さん

2011年に宇佐市から移住。
油絵を中心に肖像・風景画を
制作。
『ヒロオカアトリエ』主宰



アトリエ兼住居となった現在の家を借りた当時は、個展も控えていて修繕と制作で大変でした。あと何年かは修繕作業が続くでしょうね。でもこれは面倒な事ではなくて、自分の作品にこだわるなら環境づくりも大切な要素だと思っています。仕事については油絵の注文を受けたり、絵画教室を運営していて、最近は市内の小学校からお声がけ頂いて出前授業をすることもあります。様々なご縁に感謝しています。



築130年の空き家を借り、周りの人達からアドバイスを受けながら修繕と制作活動を進めている。

陶芸家



作品だけでなく国見での
暮らしも伝えていきたい。
この雰囲気は器にも
にじみ出てくると感じます。

垣野 勝司さん

2012年に千葉県から移住。
家族で食べる分の米や野菜を
作りながら、器の制作に励む。
『くにさきかたち工房』主宰

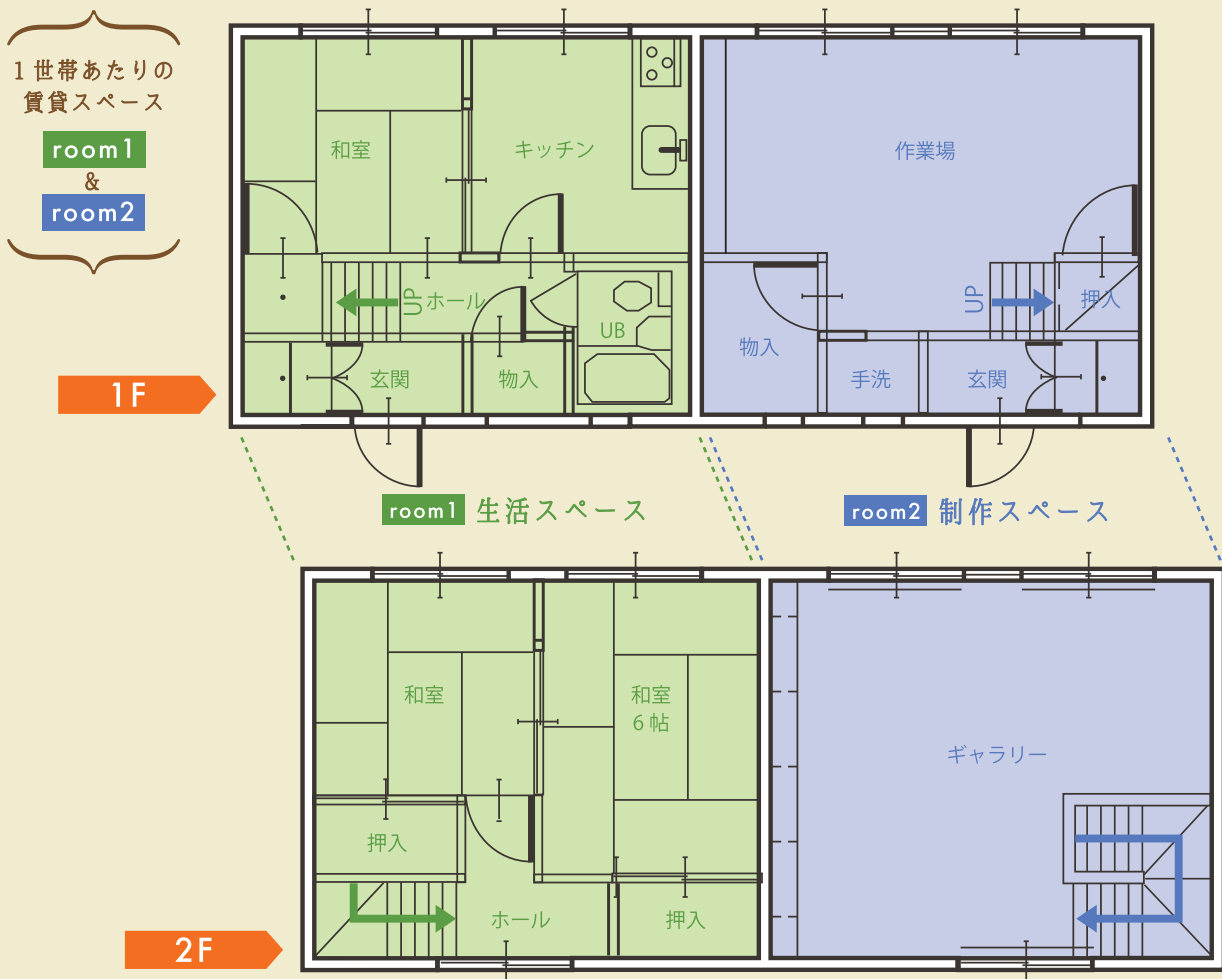
国見の海岸には砂鉄が出るところがあって、その砂鉄を使って釉薬づくりに挑戦してみたり、庭のみかんの木を剪定して出た枝を燃やして灰釉にしたりと、この土地からインスピレーションを受けて制作しています。千葉や地元のお客様から注文をもらって器を作りながら、異業種の方との展覧会を企画したり、家族が食べる分の米を育てています。器の背景にある国見での暮らしぶりも一緒に伝えていきたいですね。



近所の海岸で採取した砂鉄を付けて焼いた、独特な味わいの器。身近な物を使い実験を重ねている。

アーティスト・イン・レジデンス

移住を考えるアーティストのために空間をサポートしています



【備品】 ◎エアコン ◎冷蔵庫 ◎洗濯機 ◎テレビ 等

住まい・作業場として利用できる2つの部屋をご用意しています。
国見町で暮らしてみませんか。



「アーティスト・イン・レジデンス」使用料金
月額 15,000 円

※公共料金（電気・ガス・下水道料等）別途かかります
※入居に関しては審査により決定します。
くわしくは『くにもみ粋群』までお問合せください。

お問合せは
NPO 法人国東半島くにもみ粋群 / Tel.0978-82-0770
ホームページは「国東半島くにもみ粋群」で検索！

「国東市 空き家バンク」も是非ご参考に。
国東市空き家バンクとは、国東市への移住を考えている方に「空き家」を紹介し、賃貸や売買のお手伝いをする制度です。

ホームページで市内の空き家を紹介しています
<http://www.akiya.u-kunisaki.com/>

お問合せは 国東市役所 政策企画課 / Tel.0978-72-5161
E-mail : kikaku@city.kunisaki.lg.jp